



パスウェイズ・ジャパン
PATHWAYS JAPAN

教育を通じて
難民の新しい道を拓く

Paving new pathways
for refugees
through education

pathways-j.org

©PJ/JICUF Koto Miura



教育を通じて難民の新しい道を拓く

パスウェイズ・ジャパン
PATHWAYS JAPAN

2023年度 年次報告書

2023.04 - 2024.03

Vision

誰もが自分の力で
未来を切り拓ける世界

Mission

受け入れ

世界各地で難民の状況となった人々を受け入れ、主体的に日本社会の一員となることができるようサポートする。

教育支援

市民社会の多様なパートナーとの協力により、難民の状況となった人々に、日本で高等・専門教育を受ける機会を作り、提供する。

社会づくり

難民の経験を持つ人々を、広く社会へ受け入れる環境・仕組みを、日本やアジアで創りだしていく。

代表メッセージ



パスウェイズ・ジャパン

代表理事 折居 徳正

多くの皆様のご協力を得て、パスウェイズ・ジャパンは2021年7月の設立から3年間に渡って200人以上の難民となる経験を経た人々に対し、日本への受け入れと教育、そして自立への支援を行うことができました。皆様のご協力とご支援に、心より感謝致します。

この3年間で、世界の難民の数は増え続けて1億2千万人に達し、新たな解決の必要性が高まっています。日本でも、難民・避難民を巡る制度や社会状況は急速な変化をみせ、人道的に滞在を許可された人々の数は推定で1万5千人を越えた他、2023年には難民条約に基づく難民と、新たに導入された補完的保護を併せて900人以上の人々が政府の保護を受けるに至りました。そして、ウクライナ避難民の受け入れをきっかけに、社会の各層のより多くの組織や人々が、難民・避難民の受け入れと自立に至るまでの支援に関わり、貢献するようになっていきます。

そのような中、パスウェイズ・ジャパンでは計177人の人々を受け入れ、うち71人がすでに日本語学校あるいは高等教育を修了して、進学、就職を果たしました。日本社会の一員となり、仕事を見つけて安定した生活をしていくためには、日本語の習得と文化・習慣への理解が欠かせません。パスウェイズ・ジャパンの事業モデルの強みは、日本語習得意欲と日本社会・文化への関心が高い若者を募集、選考した上で、2年間の日本語教育を提供し、進学・就職までサポートを行えることにあると考えています。そして少子高齢化の進む日本社会は、このように綿密に設計、運営された事業を通じて、意欲と能力のある人々を歓迎して、受け入れ、活躍してもらう大きな余地があると思います。

実際に、来日後日本語習得に努め、社会の一員として真摯に努力するこれらの若者達の姿に触れて、この3年間で本当に多くの組織、人々が、難民となる経験を経た若者の自立に貢献したと、支援に関わってくださるようになりました。パスウェイズ・ジャパンのもう一つの強みは、これらの学生・卒業生達自身です。私たちは、今後より多様な背景を持つ人々と共存し、活性化した社会を目指して、彼らから相互に学んで行く必要があると思います。

最後に、パスウェイズ・ジャパンの活動は、様々なパートナーとご支援くださる皆様の協力なしには成り立ちません。政府の各機関との連携に加えて、自治体、教育機関、企業、財団、宗教系組織、NGO・NPO、そして多くの市民の方々から、資金的協力、あるいは生活、教育、キャリア形成等各段階でご協力を頂き、ここまでの成果に至りました。改めて心からの感謝をお伝えします。今後もより一人一人の歩みに寄り添ったサポートを、より多くの若者に提供できるよう、皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

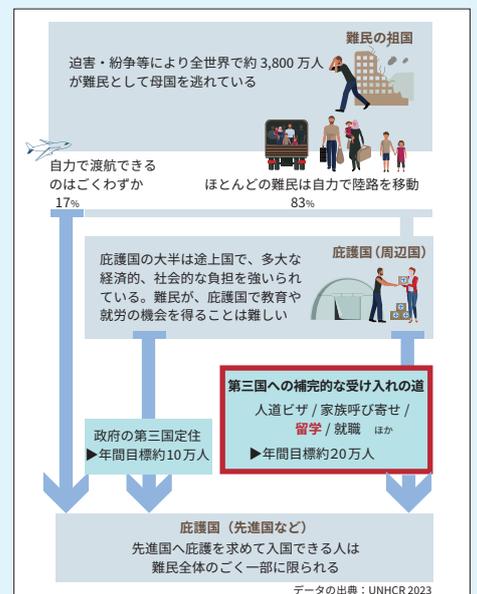
教育パスウェイズとは

パスウェイズ・ジャパンが取り組む民間主導による難民受け入れは、世界各国の市民社会が中心となり取り組んできた歴史があります。カナダでは、1980年代のインドシナ難民の受け入れから、市民社会が主導政府と協力して難民を受け入れる「プライベートスポンサーシップ」が行われてきました。1990年代以降、紛争や人権侵害により難民となる人々が増え続け、各国政府や国連だけでは十分な対応ができない状況が恒常的になりました。そういった難民を生み出す環境の変化を受け、世界各国でカナダの経験に学び、民間が主導する受け入れを行う動きが拡大してきたのです。そして、国連総会で2018年に採択された「難民に関するグローバル・コンパクト」以降、政府による再定住プログラムを補完する受け入れの道筋として推奨さ

れるようになりました。2023年に開催された「グローバル難民フォーラム」では、今後5年間で20万人の難民を就労と教育を通じて各国に受け入れることが目標として掲げられました。

パスウェイズ・ジャパンが進める「教育パスウェイズ」は、日本語学校及び大学という教育機関と協働して難民を日本に受け入れる取り組みです。来日後、最低2年間は日本語を学ぶ機会を提供することで、大学・専門学校の高等教育への進学、あるいは就職を可能とし、日本社会での自立に至るよう支援を行っています。それは、祖国を追われ難民となった若者が安心して生き延びる道筋（パスウェイズ）と、教育の機会を通じた未来への道筋を提供する活動となっています。

PJの活動の位置付け



データの出自: UNHCR 2023

活動ハイライト ～3年間の軌跡～

過去12年間、世界の難民の数は過去最多を更新し続け、2024年5月には日本の人口に匹敵する1億2000万人にのぼりました（UNHCR グローバル・トレンドズ・レポート 2023）。パスウェイズ・ジャパンが設立された2021年以降の3年間で振り返っても、アフガニスタンでの政変やロシアとウクライナの戦争など、難民を生み出す状況が新たに発生しています。

パスウェイズ・ジャパンでは、このような状況の中で、対象国・受け入れ学生数を拡大してきました。また、国内にいる難民の背景を持つ若者へ奨学金を提供する事業も展開し、高等教育進学を拡大しました。

受け入れ先となる日本語学校・大学も増加し、日本で難民を受け入れる基盤が広がっています。



来日前オリエンテーション



来日後オリエンテーション



定期面談



学生・企業とのネットワーク作り



就活支援

パスウェイズ・ジャパンでは、団体設立当初より、来日前から来日後の経済的自立まで一貫したサポートを提供し、若者が日本語を習得して日本社会の一員として生活できるよう事業を実施してきました。これら若者を支えたいと考える多くの支援者、パートナーの協力を得て、「リユニオン・デイ」の開催など日本人学生を含めた学生のネットワーク作り、交流・ボランティアを通じた社会との接点作り、「企業交流会」など企業と学生の接点作りや就活支援など、活動を充実させてきました。卒業生の内、進学した学生を除く約3割が就職し、今後ますます社会で活躍する「人財」となっていくことが期待されます。

活動の広がり



35名

シリア留学生
2017～2019年まで

177名

シリア・アフガニスタン・
ウクライナ留学生
2024年まで(帯同家族2名含む)

卒業生の進路(2024年3月時点)

～卒業・修了生 71名～

就業 23名

就職活動 7名
(パートタイム就業中)
大学院博士課程 1名
大学院修士課程 9名

大学学部 13名
大学非正規課程(研究生等) 4名
専門学校 5名
大学・専門学校進学準備 7名
その他 1名
第三国に移住 4名
本国に帰国 6名

受け入れ機関



18校
大学

23校
日本語学校

～受け入れ地域～

宮城、埼玉、千葉、東京、神奈川、静岡、京都、大阪、兵庫、岡山、島根、熊本、沖縄

高等教育支援

20名

奨学金支援対象者

就労・自立支援

15名

アフガニスタン退避者等
向け日本語講座受講者

就活支援に関わった企業数



21社

若者の出身国の状況

シリア

2011年から10年以上にわたり内戦状態が続き、難民の人数は約640万人に上ります。73%がトルコ、レバノン、ヨルダンの周辺国に逃れていますが、いずれの国でも法的な地位が保証されず、不安定な状態に置かれています。

アフガニスタン

2021年からタリバンが政権を掌握する政治的な混乱から、難民の人数は増加し続け、2023年には13%増の約640万人に達しました。特に、タリバンの政策により、女性の高等教育・就業の権利が制限され、将来の道を絶たれた女性は国外に逃れる機会を強く望んでいます。

ウクライナ

2022年2月のロシアの侵攻による人道危機の終わりが見えない中、国外に逃れる人は2023年になって増加しており、2023年末には約600万人となりました。

出典：UNHCR グローバル・トレンドズ・レポート 2023

1

志を持った難民の背景を持つ若者に高等教育の機会を提供

高等教育事業

難民となる困難な経験を経ても学びを続け、将来社会に貢献しようと努力する若者達の高等教育を支援するため、寄付者の渡邊利三氏の



強いご意思と寛大なご寄付に基づいて「渡邊利三国際奨学金」を設立し、奨学金を提供しています。これまで日本で奨学金応募の機会が限られていた期間限定の在留資格の人々を対象にしており、学費と生活費を支援する返済不要のフルスカラーシップを提供することで、難民の背景を持つ若者自身が選択する様々な専門分野で、短大から大学学部、大学院まで多様な教育機関への進学が可能となっています。

本年度は 46 名の応募者があり、学識経験者等で構成された選考委員会による審査を経て、シリア、アフガニスタン、ミャンマー、トルコ出身

の合計 12 名が奨学生に選ばれました。奨学生達は 2024 年 4 月に大学学部に入学者から、博士課程在籍中の大学院生まで多様な学びの過程にあります。また、今年は、トルコ出身のクルドの背景を持つ学生が採用され、奨学生たちの背景はさらに多様になりました。2024 年 4 月に開催された授賞式では、各奨学生がこれまでの経験と今後の抱負についてスピーチを行ってくれました。前年度から継続して採用となった奨学生からは、この 1 年での成果と今後の目標が話され、今後もこの奨学金を得ることで、各々の可能性を切り拓くことが期待されます。

2024 年度渡邊利三国際奨学生

アフガニスタン	男性	経営学部 4 年(会計学)	ミャンマー	女性	国際教養学部 3 年(国際教養)
ミャンマー	男性	工学部 2 年(建築学)	アフガニスタン	女性	国際教育学部 4 年(国際教養)
シリア	男性	理工学部 3 年(工学)	トルコ	男性	大学院修士課程 1 年(社会学)
アフガニスタン	女性	経済学部 4 年(会計学)	ミャンマー	男性	大学院修士課程 1 年(自然科学)
シリア	男性	工学部 2 年(工学)	ミャンマー	男性	大学院博士課程 2 年(情報工学)
シリア	女性	社会学部 2 年(心理学)	アフガニスタン	男性	大学院博士課程 2 年(理工学)

2

難民・避難民の学生が日本で未来への道を拓く

受け入れ・自立支援事業

2022 年度に採用され、2023 年度より日本語学校・大学で学び始めた学生はシリアから 6 名、アフガニスタンから 5 名、ウクライナから 14 名、合計 25 名に上りました。来日直後に 3 日間の集中的なオリエンテーションを行う中では、先輩学生が講師となるオリエンテーションも 1 日かけて実施し、自らの体験に基づいて日本の文化習慣、食事・買い物、経済的に生活する方法、アルバイト探しと仕事、日本語習得、モチベーションの維持、進路等について実体験に基づいた豊富な情報が共有されました。オリエンテーション後、住居探しや銀行等の手続き、アルバイト探しなど、日本で早く生活を立ち上げられるようサポートしました。その後も定期的に面談を行い、それぞれが目指すキャリアを見つけ実現できるよう伴走しています。

8 月には、2024 年度の募集と選考を開始し、シリア、アフガニスタン、ウクライナの3か国合計で 1,000 人を超える応募がありました。戦争や紛争、人権抑圧により、母国や難民となって逃れた国で希望が描けない中、日本で未来を切り拓こうと考える多くの若者から応募があり、書類選考と面接を経て、合計 31 名が採

用されました(うち 2 名は手続き等の問題で来日が困難となり辞退)。

より多くの学生に受け入れの機会を提供できるようになったことを受け、学生同士のネットワークの機会も拡充しています。毎年年度末に学生達が集まり、自分を振り返り、他の学生や社会の様々な人々とのネットワークを行い、キャリアについて考える「リユニオン・デイ」も年々充実してきています。今年度は「大学パスウェイズ・ネットワーク(JEPN)」と協力してウクライナ、シリアそして日本の大学生

が中心に集まる「JEPN 学生リユニオン・デイ」と、日本語学校に在籍・卒業するシリア・アフガニスタンの学生を対象とした「シリア・アフガニスタン学生リユニオン・デイ」を開催しました。企業関係者と就活について語る「キャリアアトーク」や、学生同士で「友人作り」について語るワークショップ、進学・就職した先輩学生から経験を聞くセッション等を行いました。なお、「JEPN 学生リユニオン・デイ」は秋篠宮皇嗣妃殿下が視察され、難民の背景を持つ学生の現状を知っていただくよい機会となりました。



©PJ/JICUF Koto Miura



3

難民・避難民が自立し社会で「人財」として活躍できる土壌を作る

就労・自立支援

2022 年度に緊急募集で受け入れたウクライナ学生 107 名を含む計 147 名の在籍学生のキャリア構築を支えるため、2023 年度より就活サポートも拡充しました。2023 年 7 月には個別企業の社員との交流会、8 月にはインターン採用や将来的な雇用に関心を持つ複数企業と学生が集っての交流会、10 月には、就活に関するセミナーと日本語講座、企業の合同説明会を行う「就活フェア」も開催しました。シリア・アフガニスタン・ウクライナの学生約 50 名が参加し、インターンシップや採用に関心を持つ企業・団体 10 社から話を聞く機会となりました。以上をきっかけに、パーソナルクロステクノロジー株式会社や株式会社ロッテベンチャーズ・ジャパン等でのインターンシップに繋がった学生が出たり、サントリーホールディングス株式会社による会社説明会など、その後も企業と学生の接点が広がっています。IT 分野を始めとして、参加企業の求める専門性を有している理系の学生もあり、参加企業からは「今後応募をしてもらいたい人財に出会うことができた」とのコメントも聞かれました。



以上の受け入れ事業に加えて、2022 年 8 月のアフガニスタンでの政変の後日本に逃れた退避者や、帰国困難となった元留学生を対象に、日本語を基礎から学ぶ「しごのための日本語講座」をオンラインにて提供しました。講師は、難民の日本語教育に豊富な経験を有する日本語教師が担当し、JLPT N5-N4 レベルの日本語習得のための授業を提供しました。対象者は公募を経て3期に渡って計 14 名が受講生となり、オンライン講座を通じて日本語力を向上させ、本講座の受講を経て、はじめてアルバイトに採用される受講者が出る等しています。

文化庁長官表彰を受賞しました

パスウェイズ・ジャパンは、来日を希望する難民・避難民を留学生として受け入れ、日本語教育機関と連携して社会で活躍できるよう支援する仕組みの確立を評価いただき、2023 年度の文化庁長官が表彰する「文化庁長官表彰」を受賞いたしました。

12 月 19 日に京都で開催された表彰式には、代表理事の折居と、京都の日本語学校で学ぶアフガニスタンの学生が出席しました。授賞式後には、同じく日本語教育に取り組む方々とも記念写真を撮らせていただきました。改めて、ここまで活動を支えてくださった皆様に感謝申し上げます。



4

「教育を通じた受け入れ」の国内外での推進に貢献する

普及・啓発事業



パスウェイズ・ジャパンは、教育パスウェイズ・グローバルタスクフォース (Global Taskforce on Third Country Education Pathways, GTF) のメンバーとして、国内外で「教育パスウェイズ」の推進と拡大に取り組んでいます。2023 年 5 月には上智大学で「第 2 回実践者コミュニティの会合 (Community of Practice)」を GTF 等との共催で開催し、教育を通じたパスウェイズの課題とグッドプラクティス、今後の拡大について、国内外の政府、教育機関、財団、NGO 等関係者とワークショップスタイルで意見交換しました。6 月にはジュネーブで開催された「第三国定住に関する政府・国連・NGO 年次 3 者協議 (ATCR)」に出席、さらに 12



月にジュネーブで開催された「グローバル難民フォーラム」では、教育と就労に関する 2 つのグローバルタスクフォースを代表する形で、代表理事の折居が、「技能 (就労・教育) を通じた補完的パスウェイズ」のプレッジを発表しました。今後 5 年間で 20 万人の難民を就労と教育を通じて各国に受け入れることがその目標で、パスウェイズ・ジャパンとしてもその実現のため、日本から引き続き貢献をしていきます。さらに、2024 年 2 月には在フィリピン・カナダ大使館等と共催の上で、第 1 回となるアジア太平洋「実践者コミュニティの会合」の開催に協力し、JEPN の活動や就活支援等について事例発表を行いました。

国内では、(特活) なんみんフォーラム、日本 UNHR-NGO 評議会 (J-FUN) のメンバーとして他の難民支援の団体と連携をしています。また、アフガニスタン退避者受け入れコンソーシアム (AFA) のメンバー団体として、難民・避難民に対する日本語教育の充実に向けた提言の策定に寄与し、2023 年 12 月に開催された公明党の難民政策プロジェクトチームで意見交換を行いました。また、ウクライナ避難民受け入れに関する東京都や NPO 等による勉強会等でも、日本語教育を含む今後の自立支援に向けた意見交換を行いました。

さらにパスウェイズ・ジャパンは、難民・避難民学生の受け入れを進める教育機関のネットワークである教育パスウェイズ・ネットワーク (JEPN) の事務局を運営メンバーである各大学や財団と協力して担っています。今年度は、教職員による定期会合のほか、当事者であるウクライナやシリアの学生、受け入れに関わってきた学生団体・グループのメンバーも集う学生会議も開催し、様々な視点や立場の人々と教育を通じた難民・避難民の受け入れについて協議を深めました。

2024年4月に来日した学生



ヒシャムさん (シリア出身)

この世界には多くの人々が不幸な状況にある中、野心と可能性を持つ人々もいます。パスウェイズ・ジャパン (PJ) はそのような人々に居場所を提供し、夢を実現させる手助けをしています。私もそのような一人です。

新しい日常が始まり、今まで眠っていた可能性が再び動き出す。自分の生活が変わり始めるのを感じます。過去の不安はもう気にしなくてもいい。生活がより快適になり、諦めていた夢が今では夢と言えないほどはっきりと見えています。日本と自分の未来を探求することが残されています。

PJ と関わって良かったと思います。自分もこの世界に何か貢献できるのではないかと考えています。だからこそ、私は常に努力を続けたいと思っています。

状況に裏切られた人々に新たなチャンスを提供することは、PJ の方々の美德です。そのことに心の底から感謝しています。



ファイザさん (アフガニスタン出身)

英語の home sweet home という文の本当の意味は、家や国を離れないとわかりません。幼少期から数カ月前まで祖国で過ごしてきた間、残念なことに、私は決して安全

だとは感じられなかったと理解しました。タリバンがこの国を占領したその日から、状況は日に日に悪化していきました。その当時、私は大学で学士号の勉強をしていましたが、タリバンは女子の教育を禁止しました。その後、私は他の国で教育を続けることを決心し、幸運にも PJ を見つけました。常に多くの国のことを考えていましたが、教育制度、人々のライフスタイル、美しく異なる文化や伝統など、多くの場合において日本という国の例外を考えたときに、日本に決めました。ここに来てから3か月が経ちますが、最初の経験は難しかったですが、刺激的で、時には奇妙すぎることもありましたが、今ではここの人々に慣れて、より快適に感じています。1年以上経ったら、大学で健康に関するプログラムを学びたいと思っています。



ダリナさん (ウクライナ出身)

国で戦争が始まったときに、ショックを受けました。怖かったです。家族で、ウクライナ国内のロシアから一番遠い所に約2年住んでいました。私の大学の勉強は全部オンラインでした。去年の冬はロシアの攻撃のせいで、電気があまりなく、大変寒かったです。日本へ来た理由は子供のころから日本の文化が好きだったからです。日本のアニメや音楽が好きになって、日本の生活についてのビデオを見て気に入りました。12歳から家庭教師と日本語を勉強していました。今、東京の日本語学校で勉強しています。授業はわかりやすく、楽しいです。先生もクラスメート達も皆親切です。問題があるとき、学校のコーディネーターがよく助けてくれます。ホテルのレストランでホールスタッフのアルバイトをしています。本当にいいところで、皆とても優しいです。色々な日本人とよく話しますから、日本語の会話力も上達しています。日本語学校を卒業してから、専門学校に入学したいと思います。それから仕事を見つけて、ここに住みたいです。

2024年4月に進学・就職した卒業生



ザカリアさん (シリア出身)

パスウェイズ・ジャパン (PJ) は、私にとって人生を変える経験でした。これまで自分には可能性があると感じていましたが、どう実現するかわからなかった夢や目標を追求するためのプラットフォームを提供しました。私は常に自分には可能性があると感じていましたが、実現する手助けをしてくれる人はいませんでした。PJ が私の人生に現れるまでは、来日してから、私は社会に積極的に貢献しようと努力しています。PJ は私に2年間の教育を与え、その後、大学の奨学金を得ることができました。現在、私は学位取得の勉強を続け、PJ や日本社会に貢献するための取り組みに積極的に参加しています。また日本に来る機会を得たことで、シリアにいる家族を支援することができました。兄弟を支援し、彼らの幸福を向上できたのは、私にとって非常に意味のあることです。PJ からの支援と指導は、私の学問の旅を加速させただけでなく、コミュニティに積極的な影響を与えるよう触発されました。この経験は私に強い目的意識と他人を助けるためのコミットメントを与えてくれました。



ハミードさん (アフガニスタン出身)

私は大学で講師をし、JICA (教科書開発プロジェクト) でも働いていました。タリバンがアフガニスタンを占領した時、私は職を失い、一緒に住んでいた兄も失いました。私はアフガニスタンから出ることを決意し、PJ のプログラムを見つけ、2022年に日本語学校の留学生として来日しました。最初の1年間は、日本での生活で一番大変な1年でした。日本語が分からなかったため、2ヶ月間仕事が見つからず、話す友達もいませんでした。最終的にスーパーで魚のバック詰めの仕事に就きましたが、とても大変な仕事でした。半年後には日常会話もでき、悩みも解決できるようになりました。日に日に様々な国の友達ができ、多様な国のことを学べ、とても楽しかったです。日本語を話せるようになったのも、丁寧に教えてくださった先生方のおかげです。2年間の日本語学校の後、私は念願の仕事に就きました。グループホームで精神疾患の方のケアをしています。この仕事は私の学士号と関係があり、今はフルタイムで働き、日本での生活はとても充実しています。一生を日本で過ごしたいと思っています。



ソロミアさん (ウクライナ出身)

日本への興味は子どもの頃に始まり、大学入学後に日本語を勉強し始めさらに深まりました。ロシアが攻撃したとき、大学の授業はオンラインになり、空襲警報のサイレンや停電が絶えず、教育の質が低下しました。その後、PJ のプログラムの情報を見つけ、全く異なる国で日本語を上達させ、新しいスキルを身につける絶好の機会になりました。私は、英語教師の資格を持っていましたが、自分のキャリアパスを完全に変えることに決めました。日本で経験を積んだ後、ウクライナでも将来働ける良い会社が多くあると思い、日本語学校に通う傍ら、授業後に毎日オンラインのプログラミングコースを受講しました。また英語の個人レッスンをしたり、近くの町で翻訳のアルバイトもしていました。日本語学校で日本語を上達させた後、就職活動を始めました。100社以上に履歴書を送った後、面接に合格し、日本のIT企業で働き始めました。今の目標は、プログラミングのスキルを向上させ、将来ウクライナと日本の共同プロジェクトをリードするための経験を積むことです。

渡邊利三国際奨学金 奨学生



ヘインイェセさん (ミャンマー出身)

2年前のクーデター発生を機に、ミャンマーの大学を休学し、日本での進学を志しました。現在は、ものづくり大学で建築学を学んでいます。建築学を専攻にしたのは、ミャンマーで地震が発生した際に多くの家屋が倒壊し、耐震性が弱いことが露呈したからです。将来は、ミャンマーの建築に携わり、建築を通して人を助けたいと思っています。奨学金のお陰で、勉強に集中することができています。大学の建築学には、設計、構造、仕上げ、木造という4つの専門分野がありますが、昨年の1年間で、全ての分野の勉強を行い、知識や技術を身につけてきました。私は将来建築物の耐震性に関わる構造設計をしたいので、今後は構造コースを専門にして頑張りたいと思います。今年の6月から構造の勉強をするためにインターンシップに行く予定もあります。インターンシップで得られる色々な経験を活かした上で、自分の知識を深め、引き続き頑張っていきます。

Hさん (トルコ出身)

トルコではクルド語での会話が禁止され、父は政治的な理由でトルコから日本に逃れ、その後、私は9歳の時に母と来日しました。来日後約14年間、仮放免者として生活しました。県外移動や就労の禁止、住民登録ができず、保険証がないなどの様々な制約とともに、収容可能性に怯え生活しました。高校生の時から難民に興味を持ち、大学進学を決意しました。志望大学から受験さえ拒否され、入学できる大学を見つけても、在留資格がなく奨学金の申し込みもできず、進学をあきらめかけましたが、叔父の支援を受け大学に通えました。大学では難民や国際関係について学び、無登録移民に関する研究で卒業論文を書き「最優秀論文賞」を受賞しました。大学院では、社会学の視点を身につけ、大学で行った研究をより深めていきます。私と家族は2023年12月に在留資格をもらい、現在は病院等に借金を返済しながら生活しています。大学院進学をあきらめかけましたが、奨学金が大学院進学を可能にしてくれました。将来はUNHCR職員になって、社会の役に立ちたいです。

メディア掲載実績

- 2023
- 04.04 朝日新聞 / ウクライナと新宿の桜、重ねて誓う夢「人生の半分、動乱に左右され」
 - 04.15 東京新聞 / ウクライナ避難民、2年目へ奮闘 在留資格更新迎え 支援有償化も これまで 103 人が千葉県に ピーク時 60 人転入
 - 05.09 朝日新聞 / 大学、ウクライナ支援工夫 学生受け入れ長期化、寄付やCF
 - 08.14 TBS / 綾瀬はるか「戦争」を聞く
 - 08.27 TBS News Dig / 「もう日本では暮らせない」難民認定後も生活苦しく 在アフガニスタン日本大使館元職員の間 タリバン復権から 2 年
 - 09.21 静岡新聞 / 避難学生の資金集め奔走 ウクライナ支援で大学 ※その他、下野新聞、埼玉新聞、岩手日報、西日本新聞、中部経済新聞に掲載
 - 09.29 日本経済新聞 / 日本に避難のウクライナ学生 大学が支援、資金集め奔走
 - 11.14 ラジオ NIKKEI / 第1小児科診療 Up-to-DATE ウクライナ難民・避難民の受け入れと教育支援
 - 12.05 TBS News Dig / アフガニスタン元日本大使館職員ら「日本語学習支援、拡充を」難民政策議論する公明党の会議で
 - 12.05 東京新聞 / 18 歳が「大学に行きたい。でも勉強しながら家計を支えるのは…」 アフガンからの難民が求める支援とは
 - 12.08 NHK ニュース / 難民危機にどう対処するか～グローバル難民フォーラム～ 日本の役割は
- 2024
- 02.19 TBS News Dig / 復興の関係者、キーウ渡航「緩和」へ 日本企業の技術でウクライナ支援
 - 02.24 大分合同新聞 / 別府市のウクライナ避難民、8割が「帰還は3年以上先」



ラッシュの支援によりパスウェイズ・ジャパンの活動紹介動画が公開

ラッシュがお客様と共にチャリティ商品『チャリティポット』を通じて応援する世界中の団体の活動紹介の一環として、パスウェイズ・ジャパンを紹介する動画が製作され、2024年2月より配信開始となりました。「A Journey of Hope」と題された動画の中では、代表理事の折居の他、シリア・アフガニスタン・ウクライナの学生と受け入れる日本語学校がインタビューに答え、教育を通じた受け入れが若者個人と学校にどのような変化をもたらすか知っていただける内容になっています。
<https://pathways-j.org/lush-charity-pot-film>

パートナー・ネットワーク 広がる教育パスウェイズのネットワーク

受け入れ大学及び日本語学校一覧 (2024年4月時点)

大学(18大学・50音順)

関西大学(大阪府)
関西外国語大学(大阪府)
関西国際大学(兵庫県)
慶應義塾大学(東京都)
国際基督教大学(東京都)
上智大学(東京都)
創価大学(東京都)
大東文化大学(埼玉県)
テンブル大学ジャパンキャンパス(東京都)
東京女子大学(東京都)
常磐大学(茨城県)
フェリス学院大学(神奈川県)
文京学院大学(東京都)
武蔵野大学(東京都)
明治大学(東京都)
立教大学(東京都)
龍谷大学(京都府)
早稲田大学(東京都)

日本語学校(22校)

仙台国際日本語学校(宮城県)
日本国際工科専門学校(千葉県)
船橋日本語学院(千葉県)
東京明生日本語学院(東京都)
ABK学館日本語学校(東京都)
東京国際外語学院(東京都)
京都民際日本語学校(京都府)
倉敷外語学院(岡山県)
国際言語文化センター附属日本語学校(ICLC)(沖縄県)

「ウクライナ学生支援会」参加の

以下の各日本語学校

カイ日本語スクール(東京都)
新宿日本語学校(東京都)
メロス言語学院(東京都)
日本語センター(京都府)
清風情報工科学院(大阪府)
コミュニケーション学院(兵庫県)
神戸住吉国際日本語学校(兵庫県)
湖東カレッジ(熊本県)
東京工学院日本語学校(東京都)
国際ことば学院日本語学校(静岡県)
ルーピングインターナショナル日本語学校(大阪府)
AMA日本語カレッジ(兵庫県)
創智国際学院(兵庫県)

受け入れプログラムパートナー団体

シリアOV会
日本ウクライナ友好協会 KRAIANY

支援団体・企業一覧

助成金

日本国際基督教大学財団
ラッシュジャパン合同会社チャリティバンク

寄付金

SAP ジャパン株式会社
京都民際日本語学校
JCA ウクライナ支援チャリティ公演実行委員会
公益財団法人世界宗教者平和会議日本委員会(WCRP)
一般社団法人東京キワニスクラブ
東京西南ロータリークラブ
社会福祉法人 日本国際社会事業団
日本聖公会聖愛教会
パーソルクロステクノロジー株式会社
株式会社フレックスインターナショナル
ブルームバーグ エルピー

物品・サービス協力

Airbnb Japan 株式会社
SAP ジャパン株式会社
国際基督教大学
株式会社資生堂
シャピーロ財団
上智大学
公益財団法人世界宗教者平和会議日本委員会(WCRP)
公益財団法人 東京 YMCA
明治大学
ラッシュジャパン合同会社チャリティバンク
早稲田大学

※五十音順・敬称略

個人寄付

16名 1,273,500円

決算報告 2023年4月1日から2024年3月31日まで

(1) 経常収益	(単位:円)
①特定資産運用益	17,962,805
②受取補助金等	7,787,372
③受取委託費	-
④受取寄付金	19,546,632
⑤雑収入	156,008
経常収益計	45,452,817

(2) 経常費用	(単位:円)
①事業費	46,663,145
②管理経費	3,359,332
経常費用計	50,022,477

正味財産期末残高 1,135,871,600

団体概要

団体名 一般財団法人 パスウェイズ・ジャパン (Pathways Japan PJ)
設立 2021年7月7日
所在地 東京都千代田区神田小川町1-8-3 The Office 神田501号室
代表理事 折居 徳正
TEL 03(6387)9114
※つながらない場合は、03(6403)9428までおかけください。

役員一覧

評議員	藤田 直介 弁護士
	功能 聡子 ARUN 合同会社代表
	奥野 由紀子 東京立大学教授
理事	折居 徳正 当財団代表理事
	井内 摂男 団体役員
	石井 宏明 (特活) 難民支援協会理事
	鈴木 真代 Social Connection for Human Rights 共同創設者
	津田 和泉 公益社団法人役員
	長谷部 美佳 明治学院大学准教授
監事	根本 剛史 弁護士
	戒井 重樹 公認会計士

 www.pathways-j.org

 @pathwaysjapanPJ

 @pathways_japan

 @pathwaysjapan

 一般財団法人
パスウェイズ・ジャパン
PATHWAYS JAPAN



「教育を通じて難民への新しい道を拓く」活動へのご支援をお願いします。
ご支援はこちらから：<https://pathways-j.org/donate>

国外からの学生募集に対し、シリア、アフガニスタン、ウクライナの3か国合計で1,000人を超える応募がありました。残念ながら不採用となった学生の中にも、アフガニスタンで女性を受けられない高等教育の機会を求めて独学で日本語を学ぶ方、日本で技術を学び内戦終結後に母国に貢献しようとする方など、意欲の高い候補者が多く集まっています。

日本で未来を切り拓こうとする若者への機会を広げるには、より多くの方のご支援が必要です。皆様のご支援で、100万円※が集まれば、1名の若者が日本にきて、生活を立ち上げ、教育を受け、自立していく道を支えることができます。(※渡航費、初期の生活支援金、サポート含む)

パスウェイズ・ジャパンでは、活動を継続的に支えてくださる「サポーター」を募集しています。皆様のご支援が、難民の若者たちにとって新たな未来への道を広げる力となります。ご支援をお願いいたします。

